平成２７年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

【学力調査結果の概要】

【国語】

・記述式の問題に関して、昨年度よりも正答率を伸ばしており、書く力が付いてきました。低学年からの積み上げの成果だと考えられます。漢字の読み取りや文法の問題には課題があります。反復練習がやや不十分であったと考えられます。

【算数】

・短答式や数量関係の問題においては、高い正答率を得ており、無解答率も低く粘り強く取り組んでいました。しかし、計算問題の正答率が低く課題があります。反復練習がやや不十分であったと考えられます。

【理科】

・全般的に見て、比較的高い正答率を得ています。理科が好きだという児童も多く見られます。実験・観察を多く取り入れるなど、授業の工夫が要因だと考えられます。

・「自然事象」「物質」問題の正答率がやや低いところに課題があります。

＜国語Ａ：主として知識＞

（成果）

・「書くこと」の領域では、昨年度に比べて、正答率が 19%上がりました。

・「書く能力」に関する問題でも、同じく正答率が 19%増上がりました。

・文章を構造的に捉えたり、人物と人物の関係性を問う問題においては、高い正答率を得ていました。

（課題）

・漢字の書き取りに関して、昨年度と比べ、平均正答率が 20%下がりました。反復練習がやや不十分であったと考えられます。

・「話すこと・聞くこと」の領域では、昨年度に比べて正答率が 10%下がりました。

＜国語Ｂ：主として活用＞

（成果）

・「国語への関心・意欲・態度」に関する問題において、昨年度に比べ 3%～6%正答率が上がりました。校内研修での「思考力育成」の取組みの成果だと考えられます。

・記述式問題において、昨年度と比べ 4%正答率が上昇し、無解答率も平均 3%減り全国と比べても、無解答率は低くなっていました。

（課題）

・短答式の問題では、昨年度に比べて 2%を下がりました。

・選択する問題では、昨年度に比べて 5%を下がりました。

＜算数Ａ：主として知識＞

（成果）

・「数量関係」の領域において、昨年度より 4.4%正答率が上がりました。少人数指導など授業形態の工夫の取組みの成果と考えられます。

・数量や図形についての知識・理解においても、正答率が 7%上がりました。

・短答式問題においては、高い正答率でした。

（課題）

・「数と計算」の領域において、昨年度より 3%正答率が下がり、計算問題でも計算間違いが見られます。反復練習がやや不十分であったと考えられます。

・「数量や図形に関する技能」において、昨年度より 3%**正答率が下がりました**。

＜算数Ｂ：主として活用＞

（成果）

・「量と測定」の領域において、昨年度と比べ、正答率が 4.8%上がりました。

・「図形」の領域では、昨年度と比べ、正答率が 7%上がりました。

・昨年度と同様に無解答率が低く、粘り強く取り組むことができていました。

・短答式問題に関しては、昨年度に比べ、正答率が 6%上がりました。

（課題）

・説明や理由などを記述する記述式問題においては、正答率は全国平均を超えています。昨年度より 15%下がりました。児童が授業の中で説明や理由などを述べる取組みが不十分であったと考えられます。

＜理科＞

（成果）

・「活用」に関する問題と「エネルギー」の分野では、全国を上回る正答率でした。

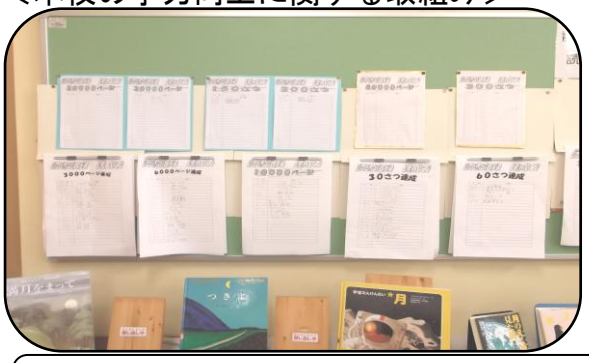
・問題形式では、どれも全国を上回っていましたが、特に記述式問題では、高い正答率でした。

（課題）

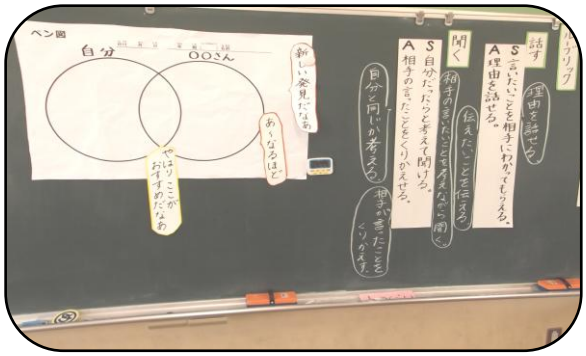
・「自然事象に関する知識・理解」の問題では、課題が見られました。自然事象に触れる機会や考えを深める指導が不十分であったと考えられます。

・「物質」に関する問題でも、課題が見られました。

＜本校の学力向上に関する取組み＞



図書室の掲示の工夫で児童の読書を応援しています。語彙力アップをめざしています。

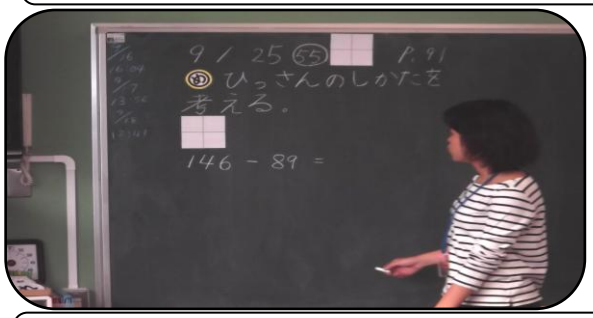


児童の思考が見えるように、いろいろなツールを使っています。考える場面で使います。

今後も ICT 機器の効果的な使用方法を考えていきます。

朝の１０分を「北小タイム」として、曜日によって、音読や読書や視写をしています。

クラスを分割して、少人数授業を行い、よりきめ細やかな授業をしています。



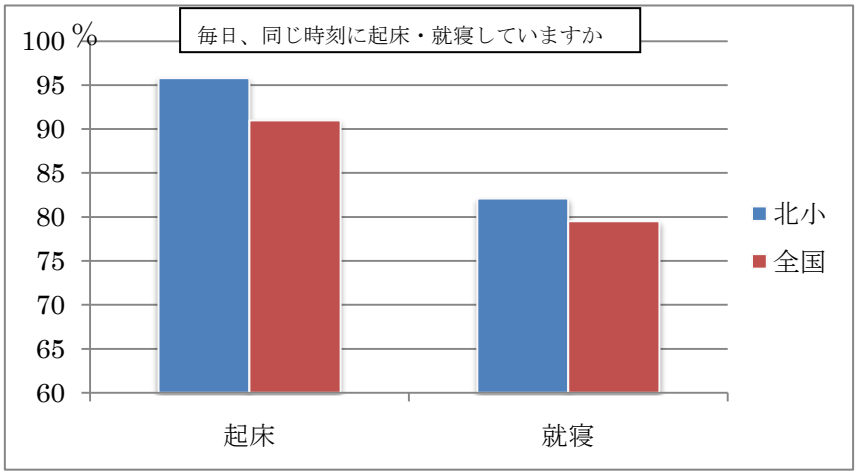
児童にわかりやすい授業（１時間のめあてをはっきりさせる等）をめざしています。

＜今後の改善方向・取組み＞

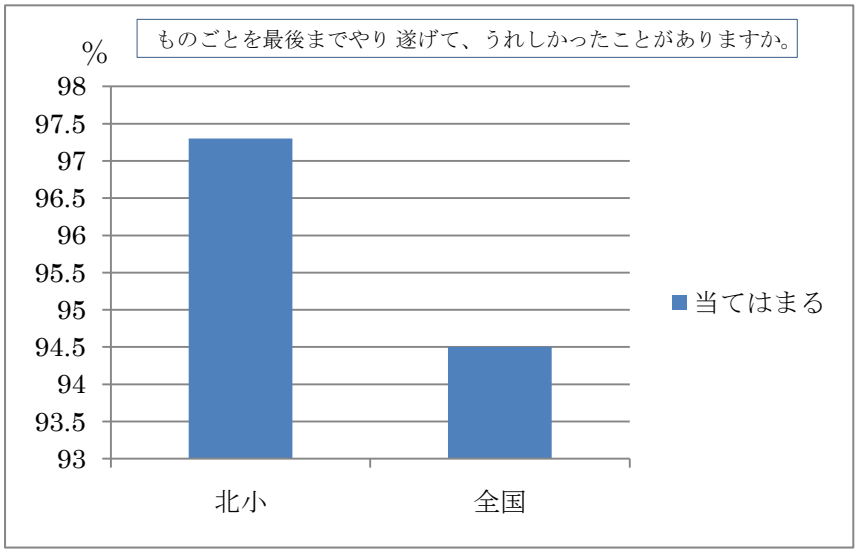
- １時間の授業の「めあて」をはっきりさせ、より児童にわかりやすい授業をしていきます。
- クラスや学年を分割しての少人数授業・習熟度別授業や複数の教員で授業をするなど単元に応じて効果的に授業形態を工夫した授業を進めます。児童一人ひとりをよりきめ細かく見ていきます。
- 授業の中で児童に考えさせる場面では、考えるための手立て（思考ツール）を用いて児童の思考を可視化し、より深いレベルで考えられたり友達と意見を交流したりする活動を増やしていきます。そうすることで、児童の思考力の向上をめざします。
- 読み書き計算など、学習の基礎的な部分は、朝の「北小タイム」を通して反復して学習することにより定着を図ります。

【児童質問紙による学習状況調査結果の概要】

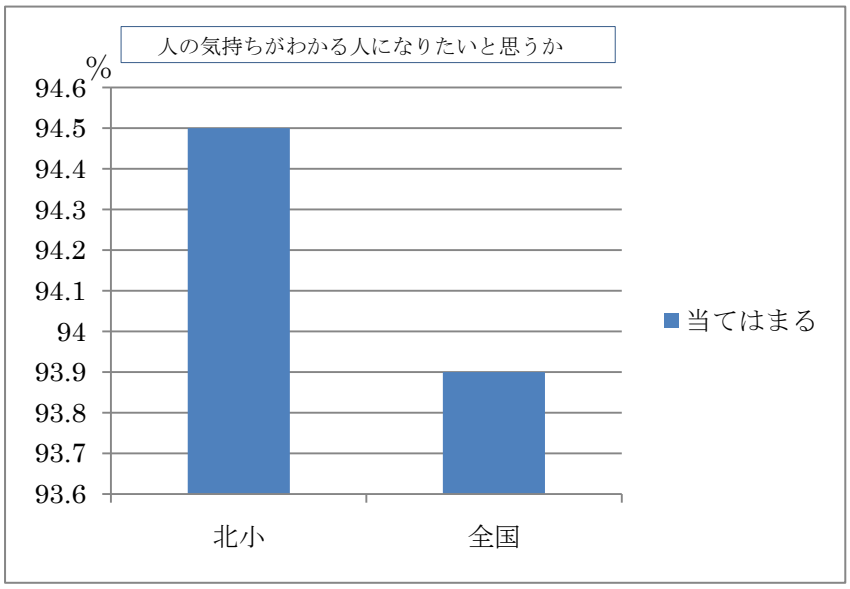
〇全国と比較して、本校の児童の特徴として注目した項目について、その状況をお知らせいたします。



「毎日、同じ時刻に起床・就寝する」という項目から規則正しい生活ができていることがわかります。規則正しく生活することは、１日の生活リズムが整い、学習へ向う姿勢も整います。

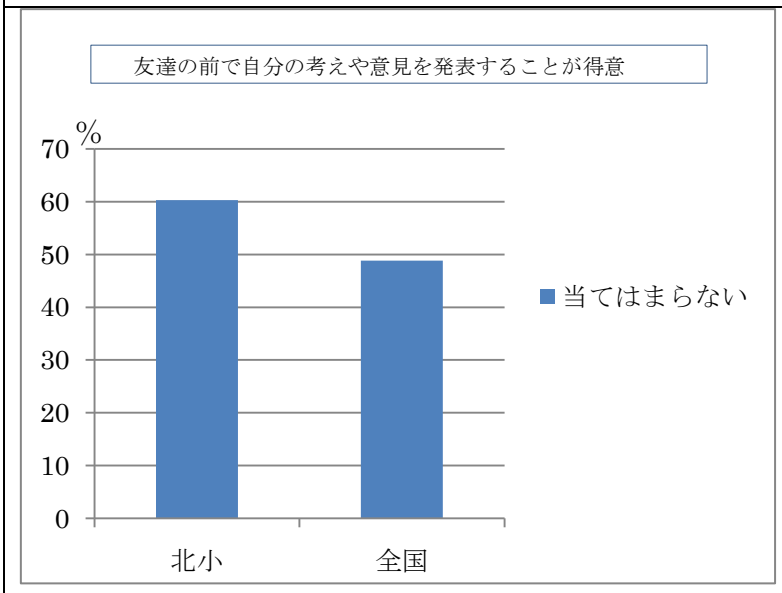


「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」という項目から粘り強く取り組んで、やりきったという経験を積んでいるということがわかります。失敗しても自分を信じて挑戦し続ける力はこれからの生活で大きな支えとなるでしょう。

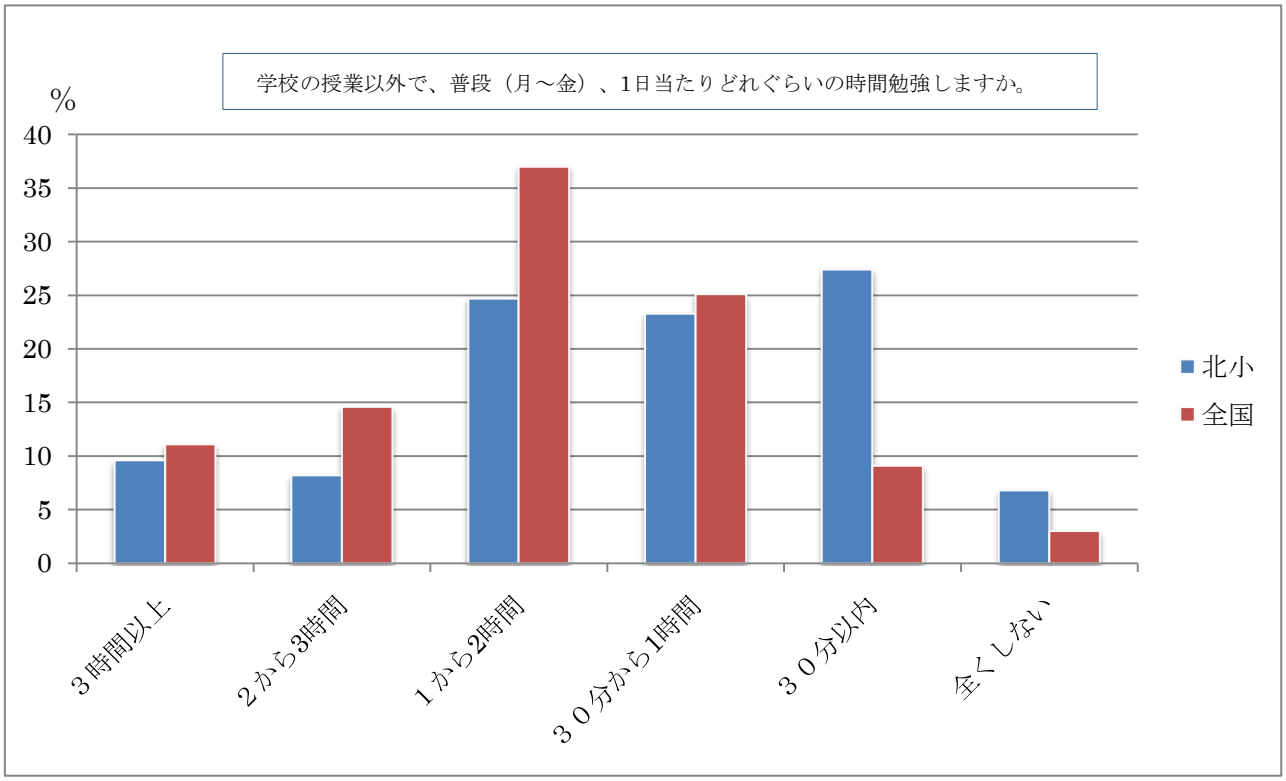


「人の気持ちがわかる人になりたいか」という項目から大半の児童が人の気持ちがわかる人になりたいと思っていることがわかります。これまでに児童は、家庭や地域、学校等で経験してきたことからそう思うようになったのでしょう。人に対する優しさも十分育っていると考えられます。

＜課題として受け止めている事項＞



「友達の前で自分の考えや意見を発表する」ことが得意でない児童が多いことがわかります。「まちがえると恥ずかしい」などの理由が考えられます。クラスの人数を減らしたり習熟度別の授業を積極的に取り入れたりするなどの授業改善に取り組みます。また、北小学校では、今後さらに児童同士の「対話する」ことに焦点を当てて校内研修を進めていきます。



北小学校の児童の学校以外の学習時間は、３０分以内が一番多いですが、全国平均では、１時間から２時間が多く、やや学校以外の学習時間が短い傾向がうかがえます。読み・書き・計算など、基礎学力の定着と自ら進んで学習へ向かうことができるような内容にするなど、より効果的な家庭学習のあり方を考えていきます。

＜保護者・児童のみなさんへ＞

全国学力･学習状況調査の考察から浮かび上がってきた反復練習の必要性や効果的な家庭学習のあり方等の課題を教員で共有し、子どもたち一人ひとりにどんな手立てが有効なのかを追求していこうと考えています。

一方で、児童質問紙から地域の行事に参加する児童が多いことからもわかるように、本校はたくさんの地域の人々に支えられている学校です。特に登下校の見守り活動への参加者は今現在も増加しています。見守り活動へ参加していただいている方々は、子どもたち一人ひとりの顔色にまで気を配っておられ、お陰で子どもたちは安心して登下校できます。とてもありがたいことです。

そんな周りの温かさに包まれて過ごしている子どもたちですが、これからの時代を生き抜くためには越えなければいけない事がたくさんあるはずです。そんなときに身につけてほしい感覚は、「温かさと強さとしなやかさ」です。

温かく見守ってもらった経験や大切にされている子は、知らず知らずに「温かさ」を身につけていきます。

「強さ」は、たくさんの自分が経験したことの中から「自信」となって身につきます。

「しなやかさ」は、柔軟で弾力がある様子を表す言葉です。周りとの関係で身につくことが多いでしょう。

学校では、学習で身につく力と学習以外で身につく力があります。どちらも大切にしながら、一日一日を大切に過ごしたいですね。

保護者の皆様には、お子さんの年齢に合った距離感（近づき過ぎず・遠過ぎず）を大切しながら、子どもたちの成長を見守っていただければ幸いです。ご協力よろしくお願いします。